いであらう。 して良い結果が得ら 政黨人といふものゝ何か に與へたといふことも決 あるやうな考へ方を一般 にもなり、 りを社會に表示したこと 劣な事質の曝露でもあり タしてゐることは實に醜 から内紛を起してゴタゴ 若松兩氏の縣参椅予写 しら不思議な一存在であ 成政黨としても無能振 社 「城部會が 個人としても n なものである。 あることを暴露したやう いふ元老機訓も無気力で なつた要するに五長者と 檜郷臺に登場するこごう

氏の先輩として石城部會たこさがない。殊に野崎 して主 若松君はそんな公約をし 然野崎君自身のものだと 松君に譲つた所若松氏が 他に襲ったから今回は常 野崎君が前期にお 張をしてゐる。 いて著 る兩者の前で連名の蘇職 長老若し自己を識るの明 である。 であり無價値であるから 長老としての地位が空名 の喧嘩さへも威令か行な何故かなれば、野崎若松 あらば断乎として喧嘩す はれないとしたならば、

道義氣質がなければなら べきが、 へるが當然のことだと決 んとする部會長老と称す 氏へ縣參の椅子を與へる る五名が ぬと主張をしてゐる。 の領 政黨人としての 野腦 鬪を裁斷せ 君に與 夏つた、政黨人が譲つた てゐるといふ である。 る縣叁のイスが、 の運用に参與する重大な 然して縣民としては縣政 確に認識せしむる為めに ガン首を揃へて退くべき 長老といふ名分をより正 である。

の臺帳に立派に三間と記し

0

家

虚弱であり年も年な爲め店

0

决定を見ることをいさぎ よしとせず敢然として退 その五名中の二名はその 排斥するものである。 ゐることは断々乎と 志繭足の為めに惡用して 譲られたと恰も自己の意

說 長老が、 態度と處置とに就 三長老の執つ

缍

弱の上に

手がある

を負はせたので直ちに鎌田

が可成りの重傷である

你無

小屋がけの 五長老さいふ者が飛び出 して喧嘩が大きくなつた た野崎者位の二縣會議員 聲明書を發表するに到つ が原参になりたいからの 一心で、歯をむき出して がみ合つてゐる。 芝居が、一躍 る筈が 2

なつて戦つても終局があ版に論爭する既成政黨の一ッの正しい標式がない 標式があるか。 れしく 0) 何 ない ないどかいるこれが正しいとか 体の論點に正し の で ある いふこと 3

的の生命が尚前途にあり然し、当者し野崎氏が政治

Do る人と ないのならば、 業もある以上生活に ある限 するし 妓屋とい

参観の為に

平水戸間に特別

列車を運轉

大演習の

門所の自愛原

の政治 味と、

水遠の光輝を副へ やうな態度でなく、自己 **参のイスを與へるといふも發せずして若松君に縣** 的生命は無限の 沈默一言

るであらう。

しての名に背道し 雅量あれて保證 よ 職

の愛薫心あるならば、氏一飲食店を管んでゐたが財界野騎君がこの擧に出づる山市に於て遠藤某と同せい 虛

臺製的合 は n

町當局は關係地主と 取戻しの膝 詰め談判

十二日に前記飯塚方へ前借んものと決心し昨年十二月

身を落して酌婦稼業をなさ いさにひかされた餘り吾が

がないため逐ひに子の可愛

七十圓 身賣りをした

 \Diamond

その他の方法で 雇へ入れ 果か見ると町有地殊に道路 い臺帳と照らし合せて測量るので伏見町長もこの程東六七十圓宛稼ぎ出しそのう ため昨季來より臨時更員をで侵害なんてとんでもない。不況と云つても此の途ばか 少町役場では町有地整理のの昔から傳はつてゐるもの ことは既報したが整理の結 整理をすいめてゐる 如 きは甚だしいのは當時 役場備へ附けの古話だと却つて吏員を困らせ と見られてゐる 理は相當日時を要するもの 全線に 亘り實地につ 長さ共に いて視察をなしたがこの整 且つ殘つた金を前借の內拂 た處が同人は非常に身体がひとして雇主へ支諦つて來 衣類、食費等を支拂つて尚 りは又角別トメは毎月平均 ちより子供の養育費六圓と

の長老どしても當然若松

書を突きつけることが當

買つたは全く隣接地主に侵害される重大は牛位しかなく残りの一間半 富局は關係地主に膝詰談判 半位しかなく残りの一間 てあるものが約年分の一間 ので驚 かた町 へ出る事も月に四五回位休

して取戻しに奔走してゐる

中にはこの土地は何十代

始末な

してゐるので一方の聲明書に現れ メを他へ鞍へなる上は小松氏の名は双

重不况の為めに遂に廢業して百十圓程になつてゐるを 夫と別れ四歳になる男の子 ぎでもせんと石城地方に ても属じ事思ふ様な働き口 れ込んで來たが石城地方と を連れて昨年十一月女中稼 流 2 衣類代や客の不足勘定台 して四十圓程あるから都 貪慾限りなき一部雇主への見せしめ たのでト 刘 メは全く前途|署で初めてゞある 話取らしたが酌婦の自廢し平 合呼の出し自廢に同意して引為め鐵道黨局では來る十八 は明したので今十一日トメを地方の一般參觀の便を計る は全く雇主が不都合な事と判る特別大演習に於ける石城 金を訴へて自廢を願ったが し|を悲観し平署へ前後の事情

九の兩日左の如く臨時列車

を運轉すると

民政の すれば澤山

石城民政軍顧問の中草野三 聲明書問題を生む 縣参問題が新に 信ずべきかいよく一奇觀を

として小松春治、草野三 に對し事實と相違の點あ 明書か發表されたが圖ら 雨大等を以て昨報の如き 選せしむべく 崎滿巌氏を縣参事貿員に 郎氏を除 四名の顧問は たといふこ 置題は される事となつたので全く 此の醜爭は興味を以て見ら トー又々新らしい争ひが醸 聲明書 へと飛沫しこ ゐる

しも右聲明書に連名する がつた、これがため當のかつたといふ問題が持ちれ こを小松氏が承諮して居り 平町二丁目尼子自動車部所 野菜行商の 16 キヌさん 夜自動車に轢る

小松氏

十九日

同

十八分一同六時四十九分十八分一同六時四十九分

野星するに至つたので縣参問 (密告屋) 《湯本町某商 返りをうつたと噂されて 君ほ 徒になぐられたと云ふが 生)・平第一の某訓導生 んまり感心せぬヨ(通勤 店の一人息子商賣なごそ つちのけにし妾狂ひはあ が今に頸に繩がかゝるぞ 公金を使ひ込んで居りな おりますが本當の事でし がら大きな面をしてゐる 町附近の某村助役は現在 ようか(若松派生) 議より若干惠まれて寢民政黨の某顧問は野崎 and a <u>A</u> 容

投書歡巡(係り)

集す。
見習工三名至急募

私は憶する色もなく立上つ

り、また時によると綺麗な

御見合の御鳥真は

と女に化け方の巧な事は舌

時は遠國の大金持に化けた 時は田含者に化けたり、 る事はよく知つてゐる、或 大探貞が變装の妙を得て居

まねいだ。さしまねがれて

穴の入口に立つて私をさし 彼方の海岸に飛び移りほら 所に來ると例の怪しの船頭

のであらう

か此不思議な場と驚きとで前後を忘れて飛

び上つた。かねてより長岡

はひらりと身をおざらして

たが質は非常に氣味が悪か

つたよ何から何まで合點の

をまくばかりであるが、今

た手際はまた格別だo 日この黑んばの船頭に化け

有聲座の割引券あり

郷湯眞は

白銀

跳)

つてハシケから其ほら穴を 更ごうなるものかと思ひ切 行かの事ばかりだけれど今

K

一髪つて居るのは、

(日曜火)

理 作派 軍人報 固

えええ長間大探貞かと此時

私の顔はまアごんなだつた

らう喜びとおかしさと安心

岩がいくつも!~つゝ立つ 此邊礙は屈曲して浪奇形の 廻ると海星丸の船体は最早 ある海岸からは徐程離れて て居る其間を船は巧に漕ぎ 見えずなり人家やハトバル シケはますべし に進んでやがて巨大な岬を船頭は忽ちえんびを伸して と默つてゐると其内にハ あらぬ方角 真つるかさまに岩と岩との と一」聲呼びかけた私は實 だが『これね、 に驚いたむくつと飛び起き 私い肩先をむづと引つ摑ん 間に打倒れたすると怪しの 料西 理洋 武田勝雄!

電話四三九番

端に到着した。此處は三面

二三歩退いて吃り身がまる

進んで、遂にとある岬の一

をなして居る所だほら穴の って、其下が巨大なぼら穴 度眠れる婦人の形に似たる シケの到着した海岸には丁 げるやうな絶壁で今私のハ 絶海の波に臨み一方は見上 個の岩が双方から抱き合 てこそ曲者御参なれと腰な こんな船頭に呼びかけられ の船頭はカラーと笑ひな るピトスルを取り出してお る様に覺えは少しもないさ してこんな不思議な場所で トー詰めよると怪し

三つ四つ五つ程人の足跡が 中は極めて綺麗な砂で二つ かが此處に住って居っただよ、「俺れだよ。」俺れと かつて何をヌットつき出して『俺れ は誰だ長岡武太郎で御座る がら武田君にも分らぬのか ね此顔がと其の眞つ黑な顔 肺、ロクマク、腹膜炎、リウマチス、神經痛治療薬 現代醫藥界の驚異 飲まずに治るコリサ浸透療法

醫學博士…內野先生實驗 醫師…吉松先生發見≌論より證據百聞一見に不如

特約店員 屋 電話六四二番 舖

回實威希望者は郵券廿錢封入左記本舖へ由込あれ 試用藥と浸透療法の小冊子を郵送す 大阪市此花區吉野町一丁目 吉松醫院製劑部

自自附 特に勉强致します 冬里子之… リワ

動轉自屬 轉車串品

(九)

İ

へ切にお薦め致します。純國産品で正確堅牢なる

セイコー

腕時計を皆様

. م

防

◎宣傳

電話五五〇番

動期日 五四三二一 等等等等等 十一月三十日まで 今籤なし 約

店

H

S

電

話

+

ル

番

町三丁

ひら正宗 一等賞受

電

Ŧī.

六番

花

同優等賞受領

領酒

品評

田

鹽屋最上醬油釀造元 合名 會

東京上野車坂四三平町土橋 電話下谷五七二二番 電話一〇拳 二七番 支 压

實用家具格安賣出 杢

笥

九圓五十錢 一圓

掛、下駄箱等各種 其他角火鉢、長火鉢、 鼠イラズ、衣桁、 食卓ミ 早ミダレ箱、手拭机、本箱、茶棚 八圓八十錢 五.

出賣值安新 三方桐三ッ重簞笥 前桑火鉢 ン食 鏡臺尺七 用簞 針

> 五圓五十錢 二圓七十錢 七圓九十錢

平町一丁目 電話四〇五番

画 賃 級 沙山沙山 5 6 電話は 0) 和 ħ 御 7 用命 は

りな命生の図は捷敏實確 屋間物金 鐵銅洋和 店理代約特社會式株トンメセ城磐

五萬四千

しな略商る勝い賣廉品良

傳家

洲河 消 力 降東京 の妙葉

分淋 舖丹

御申込次第密送す週間分金二圓七十錢 二週間金五回 三週間金七圓南町火の見下